

講演要旨は以下の通り(箕輪氏作成)

- 1 まず、薩摩藩が奄美・琉球を侵略した理由として、薩摩藩は、関ヶ原の戦いに西軍（豊臣方）に与して敗北し、多くの武士団を抱えて財政難に陥ったことから、琉球国が行っている中国進貢貿易権益の奪取、及び奄美諸島を直轄し植民地化しようとしたこと。また、そのことが「奄美差別」の嚆矢であったこと。
- 2 その後、奄美に対するいろいろな差別（例えば、大和風な名乗りの禁止、髪型・服装等の風俗制限、上鹿の禁止などの反同化政策の実施、ノロ・ユタに対する宗教弾圧、諸島民の皆平百姓宣告等々）を行ったこと。
- 3 明治に入ってから鹿児島県は、藩政時代同様に奄美産砂糖を独占しようとしたが、それらが島民の激しい反対運動で阻止されると、今度は、県本土と奄美の経済をそれぞれの地方税収入で賄う「大島郡独立経済」政策を県議会で強行採決し、施行した。それによって本土と奄美の経済格差は決定的となり、その事が現在における奄美経済低迷の遠因となっていること。
- 4 その他の差別に関係する事項として、島役人の非道や、藩の過酷な砂糖収奪政策に伴い家人（ヤンチュ）に身を堕とす農民が増大し、結果として、奄美社会は、ヤンチュ（経済奴隸）・ジブンチュ（自作農）・シュウタ（豪農・ユカリッチュ・高級島役人ら）とに階層分離したこと。

パネルディスカッションでの箕輪氏の発言内容

まず、奄美出身者が都会に出て、出身地が奄美であることや、奄美の歴史や文化について、自信をもって披露できることは必要であり大変重要なことである。そのためには、しっかりと確立されたアイデンティティー（奄美出身者であるという自己認識）が大前提になる。従って、今回のような「本当の奄美の歴史」を知るための講演会等は必要ではないかとしたうえで、次のような提案を行った。

- 1 私も含めて、多くの奄美出身者が「奄美の本当の歴史」を知らないのは、郷土教育（歴史教育）がなされていないからではないかと思う（県採用高校日本史教科書は、そのすべてが近世期における奄美の負の歴史についての記載がない）。従って、「奄美の本当の歴史」が記載された教科書を採用するよう県当局に請願すべきではないか（唯一、株清水書院発行の「高等学校日本史探究」のコラムにおいて、奄美の近世史について比較的正しく記述されている）。
- 2 奄美には、かつて日本史上稀有な「ヤンチュ（債務奴隸）制度」が存在したが、彼ら彼女らは薩摩藩の過酷な砂糖収奪制度の犠牲者であった。彼ら彼女らは年貢（砂糖）のために豪農らから借金をし、そのために身を堕とし、売買され、理不尽にもこの世から消えていった。しかし現今、奄美にはその事実を記録する「慰靈碑」「記念碑」等は皆無である。

奄美には各種・各様の「碑」が建立されているが、この「ヤンチュ」に関する「慰靈碑」「記念碑」等についても是非とも建立すべきではないか（この「ヤンチュ」に関する件については、令和3（2021）年1月1日付南海日日新聞紙上に先田光演氏による特集記事が載っております）。

3 奄美諸島民にとって、慶長 14 (1609) 年は薩摩藩の侵略を受けた年であり、「画期的な年」でもある。この侵略戦争の際、奄美大島や徳之島では多くの方々が命を落とした。しかし、本件に関しても 2 と同様に、「慰靈碑」「記念碑」等は皆無である。

現在、奄美大島ではこのことに関心を持つ僅かばかりの方々が、薩摩軍が初めに着岸したといわれる笠利町津代湊の地において、犠牲者の慰靈祭を細々と行っている状況である。後に続く次世代のためにも、奄美が受けた歴史事実を記録して記念し、その拠り所となる「記念碑」「慰靈碑」等を速やかに建立すべきではないだろうか。そうでなければ、この先「薩摩藩による奄美侵略」について語られることも無く、いずれ忘れ去られてしまうだろう、そのことを危惧する。

(了)